



ADRC Highlights

Vol.129

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

1 December 2005

▶ パキスタン地震被災地緊急報告(後編) □ JICA 復旧復興プロジェクト形成調査団に参加

アジア防災センター(ADRC)研究員の中村は、2005年10月8日に発生したパキスタン地震(M7.6; USGS、死者73,320人;11月20日付OCHAレポート)の被災国パキスタンにて、10月22日から11月4日まで「JICA(独立行政法人国際協力機構)パキスタン国北部地震復旧・復興プロジェクト形成調査団」の一員として調査を実施しました。

同調査団は、地震工学、耐震診断、インフラ被害、地域復興などの様々な分野の専門家10名で構成され、3チームに分かれて調査を行いました。中村は「被災地支援計画チーム」



に属し、コミュニティ防災の専門家として、パキスタン北西辺境州のマンセーラ、バタグラム、バラコートを見学、同地にある関係省庁やNGOなどを対象に聞き取り調査を行いました。

マンセーラでは、公共病院が損壊したために負傷者を収容することができず、300名以上の患者が、敷地内の134のテントに余儀なく収容されており、薬品・食糧・防寒着も十分に行き届いていない状況でした。また、パキスタンでは、組積造の住宅が多いため、家屋が倒壊、その下敷きとなり障害を負った人も多く、現在、心のケアを含む適切な治療とリハビリテーションが求められています。

今回の調査を受けて、中村は、(1)本格的な復旧・復興段階に入る前に、まず耐震住宅の重要性を地域住民に普及させることや、(2)政府のみならずコミュニティ、NGOなど多くの関係機関による連携の強化、(3)当センターが過去にメンバー国で実施してきた住民向け防災意識向上プログラムのような、啓発パンフレットの作成・配布やセミナーの実施などを提言しました。なお、この件につきましては、中村(nakamura@adrc.or.jp)までお願いします。

▶ 中央アジア・ロシア地域防災ワークショップがカザフスタン・アスタナで開催

2005年11月2と3日の2日間、カザフスタン共和国の首都アスタナにて、「中央アジア・ロシア地域防災ワークショップ～非常事態に備えた防災適応能力向上に向けて～」が、カザフスタン国非常事態省、国連開発計画(UNDP)カザフスタン事務所の共催のもと、UNDP/BCPRとUN/OCHAの支援により、実施されました。

当ワークショップの主な目的は、中央アジア・ロシ

ア地域における非常事態時の効率的・効果的な防災対策の実現のために、早期警報の方策やその技術向上などについて、地域間での経験や知識を共有しあうものでした。期間中は、中央アジア地域のカザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタンの各国



ならびにロシアや国連機関、地域機関、NGOなどから50名を超える関係者が参加、地域共通の課題について活発な議論が行われました。会議の成果として、災害に直接対応することになるコミュニティレベルでの適応力向上へ向けて、参加各国・機関が協力する、といった提言が作成されました。なお、この件につきましては、角崎(tsunozaki@adrc.or.jp)までお願いします。

ア地域における非常事態時の効率的・効果的な防災対策の実現のために、早期警報の方策やその技術向上などについて、地域間での経験や知識を共有しあうものでした。期間中は、中央アジア地域のカザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタンの各国ならびにロシアや国連機関、地域機関、NGOなどから50名を超える関係者が参加、地域共通の課題について活発な議論が行われました。会議の成果として、災害に直接対応することになるコミュニティレベルでの適応力向上へ向けて、参加各国・機関が協力する、といった提言が作成されました。なお、この件につきましては、角崎(tsunozaki@adrc.or.jp)までお願いします。

▶ ADRC スタッフ紹介 (No.22) □ 白鳥 隆昭 主任研究員

2005年9月より竹中工務店から出向いたしました白鳥と申します。

私が竹中工務店に入社したのは1971年のことですが、設計部構造部門に配属された後は、マレーシア・ペナン島のホテル建設を含む作業所勤務、技術部など様々な経験を積んできた一方で、職務に関連した資格、1級建築士、1級建築施工管理技士、1級土木施工管理技士などを取得することができました。また、東京のエンジニアリング振興協会地下開発利用研究センターにも3年間出向したことがあり、種々の研究に携わってまいりました。



1995年1月の阪神・淡路大震災の際は、地震発生2日後に大阪港より船で神戸に入り、暖房の無いホテルに1週間泊まりながら、建築物の被害調査にあたりました。

建物の倒壊現場を目の当たりにして愕然としたことや、私が構造設計を行ったポートピアホテルは幸いにも、ほとんど被害がなく、施主からお褒めの言葉をいただいたことを覚えています。

元来、建築物の構造設計や施工には、地震等による危害を与えないことを念頭において行っているわけですから、そうした意味においても、私は防災の分野に身を置いてきたと言えるでしょう。これまでに培った知識や経験を活かしながら、当センターの事業に貢献したいと思っています。

If you have comments or requests for this Newsletter, please write to ADRC at the address on the right.

Published by: Asian Disaster Reduction Center (ADRC)
Hitomiraikan 5F, 1-5-2, WAKNOIHAMAKAIGAN-DORI, CHUO-KU, KOBE
651-0073, JAPAN E-mail: editor@adrc.or.jp Phone: +81-78-262-5540